

知床岬地区における植生回復指標の選定について

(石川 2016.9.28)

岬地区におけるシカの密度調整事業による植生回復を評価し、順応的管理を行うための指標には、1) 毎年の密度調整が植生回復に与える効果を評価する簡易指標と、2) より長期的な、岬の植生全体の回復状況を評価する指標が必要となる。

1) 簡易指標種

2013年に植生指標検討部会で議論したとおり、採食圧の受けやすさと採食耐性の2面から指標種としての適性を判断することとし、2014年に試験的に長距離の調査ライン上(草原250m、森林内700m)で出現する種を確認した。さらに、本年に現地(草原のみ)においてより長距離で、開花個体のみを対象にした簡便な方法で確認した内容も加えて判断すると、毎年の密度調整の効果を評価する簡易指標として利用できる高茎草本種、範囲や時期などの概要は次のとおり。

草原

初夏 マルバトウキ、オニカサモチ：エオルシ～啓吉湾(山中 2014.6.22.)

盛夏 エゾキスゲなど：文吉湾～アブラコ湾(山中 2016.7.31 GPS軌跡)

晩夏 チシマアザミ、ナガバキタアザミ、エゾノコギリソウ、ミソガワソウ、チシマワレモコウ、ツリガネニンジンなど：文吉湾～アブラコ湾(石川 2016.8.16. GPS軌跡)

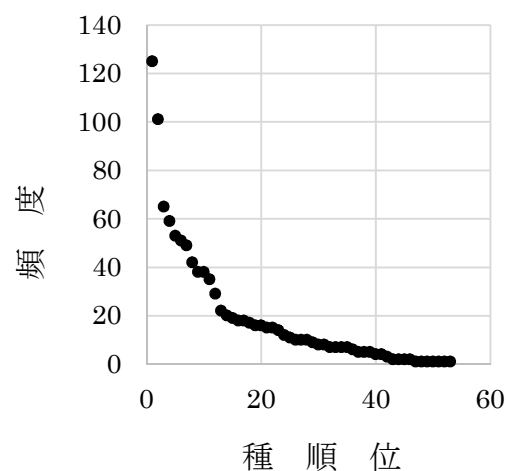
森林内

初夏 エンレイソウ類：文吉湾周辺の植生防護柵付近(眞々部 2014.6.15 GPS軌跡)
仕切り柵付近(山中 2014.6.22.)

2) 長期的な岬植生の回復指標

植生が回復するにつれて低頻度の種も回復すると期待されるものの、従来の小面積での観察では把握しきれないことから、1)に関して2014年に設定した調査ライン(草原250m250区画、森林内700m700区画)に出現するすべての種の生育状況(頻度)を調査し、優占度-種順位曲線の変化から回復状況を評価する。

調査には労力がかかるとともに、経年的変化は緩やかと予測されることから、5年に一度程度の頻度で実施する。



2014年、草原ライン(100mに換算)